

科目名	生理学のための基礎薬理学					開講 キャンパス	神 埼
担当者	能 見 光 雄						
開講年次	3	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	管理栄養士として必要な薬理学の知識を解説する。 解剖生理を不得意とする学生が多い中で開講する本選択科目は、その不得意と感ずる分野を少なくすることを最低限の目標とし、解剖生理学の知識を補強する講義として、国試に対して準備万端の知識の紹介する。						
授 業 の 到達目標	①知識・判断 1) 日常生活で使われる薬学の漢字が読める。 2) 薬学の基礎分野で普通に使われる語句を説明できる。 3) 薬の働きを説明できる。 ②思考・判断 1) 体内に入った薬がどのようにして効果を発揮するかを説明できる 2) 体内でのくすりの濃度と効き目について述べる事が出来る。 ③感心・意欲 1) 薬と薬の相互作用について興味を持つようになる。 ④態度 1) 薬の副作用について主体的に考える。 2) 薬と食べ物の相互作用について述べる事が出来る。						
学習方法	1 回目の開始時において、知っている薬の名をあげさせる。知っている薬の名を使いながら、一般的な薬効とその原理、副作用を理解させる。						
テキスト及び参考書等	テキスト：配布のプリント 参考書：「栄養科学シリーズ 栄養薬学・薬理学入門」 川添禎浩・古賀信幸編 講談社						
評価基準・方法	到達目標						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%		
定期試験	◎	○	○		70		
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎		20		
受講者の発表							
授業への参加度			○		10		
その他							
合 計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	オリエンテーションと薬が効く仕組み						
第 2 週	体内に入った薬の流れ						
第 3 週	経口薬の流れ						
第 4 週	薬の濃度と効き目						
第 5 週	薬を服用するタイミング						
第 6 週	薬の副作用						
第 7 週	薬の相互作用						
第 8 週	薬と食べ物の相互作用						
第 9 週	薬の剤形（内服薬）						
第 10 週	薬の剤形（外用薬）						
第 11 週	薬の剤形（注射薬） 投与方法						
第 12 週	一般名と商品名						
第 13 週	医療用医薬品と一般用医薬品						
第 14 週	薬剤の種類と解説 1						
第 15 週	薬剤の種類と解説 2						
第 16 週	試験						
備 考	授業外学習（事前学習・事後学習）の指示 板書を丸写しするのではなく、この授業ではどこが大事であるかを自分で考えながらノートをとる。別の日にノートを見て、授業でどんな話があったか思い出せるようにする。逆に思い出せるようなノートをとる。 試験が終わったら、忘れるような知識にしない。						